

西教寺長ノ木本坊本堂修復情報

## 二期工事始まる 修復に関する展示コーナーも完成

## ご報告

一期工事後、のびのびになっていました。が、去る四月二十六日に二期工事の本契約を結ぶことができ、ようやく本体の工事が始まりました。現在工事は着々と進んでおります。

「懇志も、おかげで予定額を大幅に上回り、一億八千万を超える喜捨を戴き、大変心強く思うとともに、修復委員一同心から感謝しております。

一期工事で本堂を解体して分かったことは、柱、梁等の腐食が激しく思いの外痛んでいることでした。したがって、当初予定されていた二期工事仮契約予算ではどうにもならず、約九六六万円の予算増額が提示されました。委員会ではこの実態を詳しく調べ検討を重ねましたが、止むを得ない事情だと判断しこれを了承しました。

その結果、諸雑費を含めると、事業費の総額は一億三七七六万九千円となりました。当初計画された基本方針は、

- ① 総予算1億2千万円
- ② 将来的に文化財とする選択肢を残した修復
- ③ 地震・不況等による門信徒の経済状況を鑑

## み、今回は骨組みだけ修復

という点で、当初の予算を超過する点ご了解願いたいと思います。

また、事業費の約一億三千七百万円を差し引いた募財の残金約五千万円を計画的に使用すべく、さまざまな案を出し合って検討を重ねました。その結果、当初の方針では「屋根替えと骨組み」であったが、多くの人の希望が強い内陣周りの工事を追加することに委員の意見が一致し、六月十九日の総代会においてもこれが承認されました。

これに従い、当初の予定に加え、ご本尊の修復、一部お荘嚴の彩色(この予算では、とても全部はできません)、内陣の拡張、内陣内装、更にトイレを本堂建物内に設置することが決まりました。

予算を計画的に使用することで一番気になることは、三津田支坊再建事業のことです。今回の長ノ木本坊本堂修復を始めるにあたり、事前に調査したところ、約十五年後には老朽化した三津田支坊を立て替える必要があり、同規模のものを再建するには約八千万円の費用がかかることが分かりました。従って、この度の募財の幾らかをこれに残しておくべきではないかと思いましたが、

三津田支坊の委員さんからも「長ノ木本坊修復のために集まった募金を三津田支坊のために貯金しておくのは何としても心苦しい。前回蔵本通支坊等が建設された時とは事情が違うので」という意見もあり、以上のことが一致して決まりました。

しかも三津田支坊地区門信徒だけでは膨大な負担となり、とても再建は困難です。蔵本通支坊本堂・長ノ木本坊庫裏建築の時には三津田支坊地区門信徒からも多大の協力を得ていて西教寺は一つです。三津田支坊を孤立させることなく三津田支坊の問題も、長ノ木や蔵本を併せた西教寺門信徒全体でこれにあたっていくのは当然であり、ぜひ門信徒の皆様にお願しておこうということになりました。

なお、この方針も総代会で他と併せて承認されました。

以上ご報告申し上げ、今後一層の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

西教寺門信徒の皆さま

西教寺門徒総代長・修復委員長

水口 満夫

外門徒総代一同